

特集▼愚かにもほどがある

# 「英語で会議」を進める 文科省の植民地根性

文科省の幹部が英語で会議をするという。世界では母国語を守るために  
紛争している国もあるのに、この国は母国語を捨てようというのか。

きたのよしのり  
北野幸伯

国際関係アナリスト

1970年生まれ。外交官とFSB(元KGB)を養成するロシア外務省付属「モスクワ国際関係大学」を日本人として初めて卒業。従来とは違った手法で世界を分析するアナリストとして活躍中。

〈文科省、省内会議に英語導入「まず自分達から」〉  
日経新聞(電子版) 4月30日付は、こ

う報している。  
〈英語教育をめぐる議論を活性化させる目的で、文科科学省が省内の幹部会議の

一部を英語で行う方針を決めたことが30日、分かった。民間企業で英語の社内公

用語に携わった人物を新たに採用して「英語会議」を担当させる。中央省庁が

省内会議に英語を導入するのは異例〉

日本の教育を支配する文科省。その幹部が、会議をする。出席者は、全員日本人だが、なぜか「英語」で会議が行われ

る。

これは、「グローバル化」を進展させる「めでたい出来事」なのだろうか？

それとも「天下の愚行」なのだろうか？

ウクライナ内戦の意外な理由

全英関係ないような話からはじめるが、ウクライナで内戦が起こっている。日本

で報じられている経緯は以下のようなものだろう。

1、親ロシアのヤヌコビッチ大統領が昨年11月、「欧州連合協定」調印を拒否。

2、親欧米の民衆が大規模デモを行う。

3、ヤヌコビッチは今年2月22日、首都

の半数以上を占めるクリミア自治共和国およびウクライナ南東部で激しい怒りを招いた。これらの地域は新政権を承認することを拒否した〉

子供のころからロシア語だけで生活してきたウクライナのロシア人たち。いまから、「ロシア語は使うな!」といわれ

たら、たまったものではない。

だから彼らの要求は当初、「せめて東部だけでも、ロシア語を第2公用語として残せ!」だった。

ところが、新政府は譲歩することなく、軍隊を送り、双方に犠牲者が出はじめた。新政府も、東部諸州もヒートアップし、内戦に発展したのだ。つまり、「内戦勃発」の主な理由の一つは、「言語問題」だったのである。

新政府がロシア語を禁止する理由では、なぜウクライナ新政府は、ロシア語を禁止したいのか？

ウクライナは、かつて「ソビエト連邦」の一部だった。1917年のロシア革命によって誕生し、1991年の崩壊

キエフから逃亡し、後にロシアに亡命。

4、親欧米新政権誕生。

5、ロシアのプーチン大統領は3月1日、ウクライナへの軍事介入を宣言。

6、プーチンは3月18日、クリミア併合を宣言。

7、ウクライナ東部諸州で、独立を求め

る暴動が多発。

8、ウクライナ新政府は、軍を東部に送り鎮圧をはかるも、「内戦状態」に突入。

9、5月11日、東部ルガンスク州、ドネツク州で実施された住民投票で、圧倒的多数がウクライナからの独立を支持(投票に不正疑惑あり)。

まで存在した「ソ連」。その中には15共和国あり、表向きは全民族「平等」とされていた。

ところが、実態はロシアが圧倒的な力をもっていた。その証拠に、ソ連の共通語は、「ロシア語」だったのである。

ソ連時代もウクライナ語は禁止されなかった。しかし、学校教育はロシア語で行われ、国家機関の書類は、すべてロシア語で作成された。

そのため、ウクライナ、特にロシア人の比率が少ない西部は、「ここはロシアの植民地だ!」という反発心を持ちつづけてきたのだ。

91年、ソ連は崩壊し、ウクライナは独立を果たす。それは、「ソ連」からの独立であり、「ロシア」からの独立でもあった。

ウクライナでは、ウクライナ語とウクライナ文化の復興がはじまった。そして、西部を中心に、ロシア語を排除しようとする動きが活発化している。

なぜか? ロシア語は彼らにとって、(実質)「植民地時代」の記憶なのだ。

10、5月25日、ウクライナで大統領選挙が実施され、親欧米の大富豪ポロシェンコ氏が当選。

これらは、まったくそのとおりなのだ

が、一つ重要なポイントが抜けている。なぜウクライナ東部は、「独立したい」、あるいは「ロシアに編入してもらいたい」のだろうか?

答えは、「新政府が、ロシア語を禁止しようとしているから」である。

ウクライナの人口は4543万人。そのうち17・3%(780万人強)が、ロシア系住民(以後ロシア人)。ほとんどが、東部に住んでいる。さらに、「母国語はロシア語」と考える人は、全人口の約30%。「家庭で使う言葉はロシア語」という人は、40%を超えている。

独立を達成した植民地が、母国語の復興を行う。これは、極めて普通のプロセスである。だから、ウクライナ新政府が、ロシア語を禁止したい気持ちもわかる。そして、それに反対するロシア人の気持ちもわかる。

### 「英語会議」は「天下の愚行」

ところが、世の中には、「頼まれもしないのに」、母国語を放棄し、全国民に「外国語を話させよう」と画策する人たちがいる。もちろん、日本の「文科省」のことである。

先に紹介した記事は、「文科省、省内会議に英語導入『まず自分達から』という。つまり、「自分たちが正しいことを率先して行います。皆さんも見習ってねー」ということ。全国津々浦々で、日本人同士が英語で話すようになれば、満足なのだろう。

はつきりいおう。

た。しかし、「英語ができたから発展した」という人はいない（むしろ、英語は全然できなかった）。

08年の世界金融危機勃発まで急成長していた、ブラジル、中国、ロシア。「英語が理由で」と考える人はいない。それらしいのはインドくらいである。

「インド人は英語ができるから発展した？」

英語が成長の原動力だとするのなら、英領だったインドは独立達成後、即座に繁栄したはずである。ところが、実際は高度成長がはじまるまで、何十年も時間がかかっている。つまり「英語」と「成長」には、なんの相関性もないのだ。

### 尊敬は「個性」と「独自性」で

「英語が話せれば世界で尊敬される」というのも、大いなる勘違いである。

少し違う例だが、ロシアの王族・貴族は、ピョートル大帝（在位1682～1725年）の時代から、革命でロシア帝国が崩壊するまで、フランス語を「宮廷公用語」として使っていた（当時は、フ

これは、日本を米国の「属国」にする道である（すでに十分「属国」だが）。古今東西、ある国が他国を征服した際は、「同化政策」が行われた。

中でも重要なのは、「言語政策」である。

「言葉」の中には、その民族の文化、伝統、歴史が集約されている。それを奪うことによって、宗主国に「同化」させるのだ。

日本は、実質米国の属国だが、それでも米国は、「日本人は全員英語で話せー」とは命令していない。それで、日本人は日本語を話し、政治家がだらしなくても、「日本人」でありつづけることができる。

しかし、国の上層部が英語で会議し、それを全機関に押しつけたらどうなるのか？ そう、日本人は、「アメリカ人」になるのだ。いや、正確にいうと、日本人でもなく、アメリカ人にもなりきれない、中途半端でアイデンティティーのない存在になる。

「そんな、大げさな……」  
普通の人は、そう思うだろう。

フランス語が、現在の英語のようなポジションにあった。

ところが、それでロシアが尊敬されることにはならなかったのである。

ロシアが尊敬されるとすれば、文豪トルストイやドストエフスキーなどの功績による。

「ドストエフスキーが好き」といえば、現在でも欧米人から「かなりのインテリですねー」といわれる。

ロシアは、「ロシア独自の文化」によって尊敬を勝ち得たのだ。

ちなみに日本も、異常に発展したマンガとアニメが世界規模で尊敬されている。

世界を旅すれば、どこにいても、「日本のアニメを見て育った」という人だらけだ。もし、日本が世界で尊敬されたいなら、二級アメリカ人になる努力をする必要はない。

むしろますます「個性」「独自性」に磨きをかけなければならぬ。

もちろん、筆者も「外国語学習」を否定しない。そこまで極端ではないし、民族主義者でもない。外国語を話せること

しかし、考えてほしい。なぜウクライナ東部のロシア人は、「命をかけて」ロシア語を守ろうとしているのか？（ウクライナ語を使えば、死ななくてすむではないか？）

なぜウクライナ新政府は、ロシア語を「第2公用語」にすることで、内戦を回避しようとしたのか？（新大統領のポロシェンコは、東部の激しい抵抗に押され、ロシア語問題で譲歩する姿勢も見せはじめているが）

彼らは、ロシア人がロシア人でありつづけるために、ウクライナ人がウクライナ人でありつづけるために戦っている。そして、それは「母国語を守る戦い」なのだ。その意味を、私たち日本人も熟考しなければならぬ。

文科省が「英語」を強力に推進する背景には、「英語ができれば、国が成長できる」という「信念」がある。これは、「真実」なのだろうか？

日本は、明治時代と、第二次大戦後の2回、世界が驚く驚異的成長を成し遂げ

は、確かに便利である。

しかし、個人が外国語を話すことと、日本の教育を司る省の幹部会議が英語で行われることは、まったく別次元の話だ。藤原正彦氏は、大ベストセラー『国家の品格』の中で、こう書いている（傍点筆者）。

「小学校から英語を教えることは、日本を滅ぼす最も確実な方法です。」

公立小学校で英語など教え始めたら、日本から国際人がいなくなります。（略）国際的に通用する人間になるには、まずは国語を徹底的に固めなければダメです。表現する手段よりも表現する内容を整える方がずっと重要なのです（39～40ページ）

この本が書かれた9年前から、事態はさらに悪くなっているようだ。私たちは日本を「米國化」「属國化」することを望まない。

私たちが望むのは、「日本の自立」であり、世界から尊敬される一流の「日本人」になることである。